

科目名	アジアの子ども文化				
担当者氏名	山田 正人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 教養教育-1 国際社会に貢献できる人材育成				

《授業の概要》

「子どもの権利条約」ができた背景を理解し、中でもアジアの子どもたちの生活にフォーカスして実情を知る。SDGsの内容について理解を深める。アイスブレイキングや、アクティブラーニングの手法を使い、将来の実践に活かす。

《テキスト》

教科書は指定しない。

《参考図書》

その都度、プリントなどを配布。また、授業内で指示した本を課題図書として、教案づくりなどに活かす。

《授業の到達目標》

本講座は、「子どもの権利条約」を軸にしながら、アジアの様々な国の子どもの実情を理解し、子ども達の持つ文化的側面を理解することを目標とする。日本の子どもの貧困率が7人に一人の割合であると言うデータがある。アジア諸国の子どもの教育課題などの事例を参考にしながら、子どもにとってより望ましい子ども文化を考察していく。日本もアジアの一員なので、日本の子ども文化についても触れていく。

《授業時間外学習》

授業内での発表のために、時間外でのグループ作業が必要な時もある。

《成績評価の方法》

第1回目の授業で、授業態度、毎回の振り返り用紙の作成、プレゼンテーションへの参加度などの評価方法を配布します。平常点（毎回の振り返り用紙）40% 課題の提出物（プリント・レポート類）40% グループプレゼンテーション 20%

《備考（教員経験の有無）》

プレゼンテーションなどをする予定である。積極的に参加する生徒の評価を高くします。教員になって目の前の子どもたちに対するときに接するときの心構えなども伝えていきたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション アイスブレイキング	年間計画 評価方法 人間関係トレーニング 課題図書の提示など
2	子どもの権利条約を学ぶ	ユニセフのカードを使い、様々な国の子どもの状況を学ぶ
3	SDGsを学ぶ	SDGsとは何か、
4	児童労働について	フリーザチルドレンの創設者のクレグのDVDを鑑賞。グループワーク。
5	100人村ワークショップ	世界を100人の村にしてみると、何がわかるか？
6	難民問題	[難民ワークショップ]を通して、様々な国の難民について学ぶ
7	地雷問題	カンボジアでのテラルネッサンスの活動を通して地雷の問題を探る
8	貿易ゲーム	様々な国に分かれてみて、富の不公平さに気づく。
9	食糧からみた世界	いろいろな家庭の食糧を見ることで、その国の背景を探る
10	様々な国の家族のしつけの違い	子どもの教育に関して、国によって親の対応や、久野、地域の対応の違いを見る。
11	絵本から学ぶ	いろんな国の絵本を、教材化する。グループワーク。プレゼンテーション。
12	様々な人権問題	外国人労働者問題、障害者問題、など、小学校ですぐにも直面するような問題について学ぶ。
13	外国の人たちの子育てから学ぶ	ネパール、ベトナム、ペルー、ブラジルなどの、子ども達を招き、違いと共通点を知り、次の世代に活かしていく価値観について探る。
14	子どもの教育はどうあるべきか（1）	グループ討議 アクションプランを作成
15	子どもの教育はどうあるべきか（2）	プレゼンテーション、アンケート